

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	建設課	主管課長名	五十嵐 貴裕
5-3	施策名	道路網の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
市内の道路	①市内道路延長(国道、県道、市道)	km	見込値	1,638	1,639	1,640	1,641	1,642	
			実績値	1,631	1,631	1,631	1,632	1,632	
				見込値					
				実績値					
				見込値					
				実績値					
施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
利用者が安全で快適に通行できる環境が整っている。	①道路未改良延長(一級・二級市道)	m	目標値	20,000	19,700	19,400	19,100	18,800	
			実績値	20,434	19,916	19,240	19,008	18,399	
	②市内の道路が安全だと感じる市民の割合	%	目標値	22.5	25.0	27.5	30.0	32.5	
			実績値	20.8	21.1	21.8	25.1	23.5	
	③危険箇所数(通学路)	箇所	目標値	56	55	54	53	52	
			実績値	21	25	11	1	25.0	
				目標値					
				実績値					
				目標値					
				実績値					
成果指標設定の考え方	○市内の道路交通については、①で幹線道路の改良が進んでいるか、②で市民が道路の安全性にどの程度満足しているか、③で危険箇所数で通学路の安全対策が進んでいるか、で把握する。								
成果指標の把握方法と算定式等	○①道路未改良延長(一級・二級市道)は、国土交通省道路局の道路施設現況調査より求める。②市内の道路が安全だと感じる市民の割合は、市民アンケートより求める。③危険箇所数(通学路)は、通学路安全推進会議(通学路交通安全プログラム)より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、東日本大震災により落ち込んだが、国庫交付金事業の通学路整備や橋梁長寿命化・定期点検事業等、毎年の事業の成果もあり徐々に回復しここ数年20%を超えるまで戻った。昨年度は、多くの行政区要望に対応するため、生活道路の改良工事や維持補修工事を実施したが、実績値の上昇とはならなかった。 道路未改良延長(一級・二級市道)については、令和2年度は19,008m、令和3年度は18,399mであり609m向上した。 危険箇所数(通学路)については、令和2年度は1箇所となったが、八街市での事故を受け、合同点検した結果、危険箇所数が25箇所に増加した。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①道路未改良延長(一級・二級市道)については、幹線道路の改良を実施しており、着実に数値を伸ばしている。 ②市内の道路が安全だと感じる市民の割合については、目標値に及ばず、実績値も昨年度より低下した。 ③危険箇所数(通学路)については、道路補修の優先箇所として危険度を重視しているため、かなりの箇所数を対応はしているが、八街市での事故を受け、合同点検の結果、新たな危険箇所とされたものが多くあるので、「危険性」「緊急性」等、状況を確認し対応を進める。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 「道路改良事業」により、市民がスムーズに快適に市内を移動できるように、新規路線の整備、既存市道の拡幅、側溝整備、通学路整備等の改良を図った。 補正予算を組み「道路補修事業」を例年以上に対応を実施したが、経年劣化した道路施設の補修のため、「市内の道路が安全だと感じる市民の割合」の向上・「危険箇所数」の解消とはならなかった。 「上曽トンネル整備事業」では、市道M2760号線(上曽トンネル)の整備について、工事発注後の諸調整や設備工事協議を行い、事業進捗を図ることができ、市道の整備に貢献した。	道路利用者が安全で快適に通行できる環境を整えるため、市内の道路網の整備を図る。 昨年度に引き続き、市道の「道路改良事業」、「道路補修事業」に重点的に取り組み、合わせて本市と周辺地域間の交流の活性化等を促すため、本市と周辺地域間を結ぶ幹線道路の整備促進を国・県に働きかけていく事にも力を入れて取り組んでいきたい。 また、防災・減災、国土強靱化の考えに基づき、新たな財源を活用し道路網の整備、改修に取り組んでいきたい。